牛群検定の利活用などについて、解説記事を掲載しています。

- 1 全酪新報 5月1日号 全国酪農協会
第35回繁殖改善で経営向上「牛群検定活用しよう」渡邊 徹 家畜改良アドバイザー
数値異常ないのに発情弱い？現実優先 新たなデータで解決
- 2 デーリイマン 5月号 デーリイマン社
牛群検定の読み方（その21）
乾乳日数から早産発生状況を把握する
- 3 LIAJニュース5月号 （一社）家畜改良事業団
新しい牛群検定成績表について（その89）
乳中ケトン体(BHB)と脂肪酸組成(FAO)
牛群検定ビッグデータ（その33）
牛群検定に参加している品種について

赤ペン 乳量編① 乳量減少の要因を探求

赤ペンによるコメントがいよいよ開始されました！検定農家に届けられる毎月の検定成績表一枚一枚に赤や青字でコメントが記載され、農家個々に改善ポイントを知ることが出来るようになりました。当団の繁殖台帳Webシステムにより、パソコン等で利用出来ます。繁殖台帳Webシステムについて、各検定組合にお問い合わせください。別途の費用は不要です。

今回から赤ペンとは、どのようなものなのかお知らせしたいと思います。

<ポイント>

赤ペンを見るにあたって最も大事なことは、先ず成績表上部に記載される「今回のポイント」を見ることです。ここで、ご自分の検定成績の乳量について大まかなポイントを把握します。裏面の事例では、「通年的に乳量が低い」と赤ペンで大きく書かれています。通年とは、季節を問わずにと言う意味で、いつでも乳量が低いと、酪農家にとって致命的ともいえるメッセージになっています。

余談ですが、農家が集まった研修会等で「どこが悪いのか、一言で話して欲しい」と言われることが度々あります。これからは、この部分を見て欲しいとなります。

<見方>

次に上述のポイントの要因等を探ることが大切です。検定成績表にはいろいろなヒントが隠されています。原因となっていると考えられるところに、コメントが出力されているのでひとつひとつ確認してください。

例えば、中段の検定日(24.05.28)の搾乳日数(285)日には、「搾乳日数が長いと乳量減少の原因となります。繁殖を見直しましょう」とコメントされています。関連して繁殖を見てみると、分娩間隔は457日と長く繁殖がうまくいっていないことがわかります。繁殖がうまく行っていないことから、乳量の低い牛も搾り続けることになっています。

また、体細胞数が高いことも、低乳量の大きな要因です。高体細胞数は直接乳量を低減させるだけでなく、繁殖の悪化にも繋がります。

赤ペンは個体毎にも表示されます。具体的にどの牛が低乳量なのか、などは次回に紹介したいと思います。